

山梨県理学療法士会会報誌

# SUPPORTERS

サポーターズ

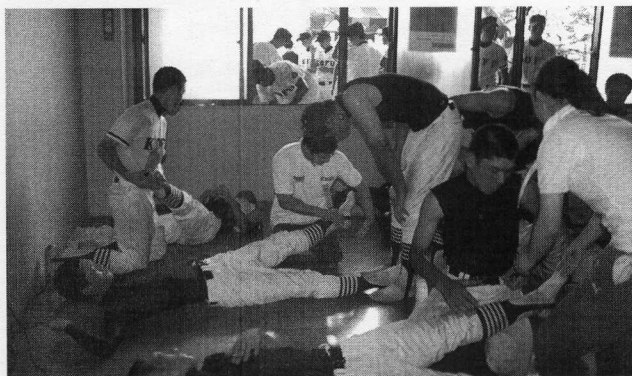
No.127 2010 秋号

士会ホームページ <http://ypta.jp/>

会員数 598 名 施設数 90 (8月17日現在)



▲ 交流会 施設・新人紹介



▲ スポーツ理学療法部 (第92回全国高等学校野球選手権大会)



▲ 第1回学術研修会・1日目

Contents

- 特集 平成 22 年度 新人理学療法士紹介… 2 ~ 6
- 平成 22 年度 交流会報告… 7
- 事務管理局より… 7
- 各部活動報告… 8
- お知らせ… 9・13

- 会員外のお客様
- 山梨県高次脳機能障害者支援センター紹介… 10
- リレーエッセイ Part 9… 11 ~ 12
- 原稿募集… 12
- 編集後記… 13

「supporters(サポーターズ)」とは・・・

我々理学療法士が社会に寄与していく職種であることを思い、『支える人』という意味の supporter に複数形の s を加え、supporters: 支える人たち(造語)の意味です。

## 平成22年度交流会報告



「平成22年度山梨県理学療法士会交流会」を2010年6月4日に、ベルクラシック甲府にて開催させていただきました。総勢275名（新入会員73名 参加施設36施設）という多くの方々にご参加頂き、大盛況の中で会を終えることが出来ました。参加施設も年々増え、会員の皆様にとっても、他施設の方々と交流する良い機会になったのではないかと考えています。

また、「施設・新人紹介」では、全ての参加施設と新人会員の皆様（36施設・73名）にご協力頂き、会を盛大に盛り上げて下さったことに、本当に感謝しています。

今後も、皆様がさらに交流を深め、県士会活動が益々発展していけるようご協力頂ければと思います。



多くのご参加、本当にありがとうございました。

総務部 高石みわ

### 事務局より

#### ●変更手続きについて●

会員データに変更（異動・休会・復会・退会）がありましたら、届出が必要になります。士会HPに、各種届出用紙があります。郵送にて、早急に手続きを行って頂けるようお願いいたします。

**入会をされていない新人会員の方は、早急に会員登録するようお願いいたします。**

- 異動（勤務先変更・自宅住所変更・改姓・転出入等）が生じた場合は、速やかに事務局へ異動届をご提出ください。
- 各種届出用紙（異動・休会・復会・退会）は協会HP及び士会HPにてダウンロードできます。
- 県外異動については、異動前及び異動後の各都道府県士会事務局へ提出ください。
- 提出時には捺印のご確認をお願いします。（捺印がない場合、処理致しかねます）

#### ●慶弔申請の窓口は事務局です●

慶弔事項（一親等ならびに配偶者）が発生しましたら、速やかにご連絡をお願いいたします。

#### ●会員証のお申し込みはお済みですか●

会員証は今後、研修会・選挙等の参加の際に必要となります。協会も推進しており、皆様のご協力のほどよろしくお願いいたします。

ご不明な点につきましては、下記問い合わせ先にご確認下さい。

- 問い合わせ先：事務局 齋藤（甲府城南病院リハビリテーション科内 TEL 055-241-5811）

## 学術局発 第1回学術研修会 報告



平成22年6月12日(土)、13日(日)の2日間にわたり、第1回学術研修会が健康科学大学にて開催されました。文京学院大学の福井勉先生を講師に迎え、「姿勢制御、皮膚運動」と題して講演・実技指導をしていただきました。参加人数は、1日目が130人、2日目が138人と会場が甲府盆地から遠くであるにも関わらず多くの参加者がありました。1日目には主に関節モーメントと評価、治療の講義があり、基礎である解剖学や運動学の知識が大切であることを実感しました。

2日目にはキネシオテープの実技があり、自分達の体を使ったことで骨盤や足関節の可動域の変化を体感することができました。「皮膚が大切ではなく、皮膚も大切である」との先生の言葉が印象に残りました。日頃から1つのことばかり着目せず幅広い視点で患者様をみていく、治療方法を考えていくことが大切だと再確認させられました。



巨摩公立病院 向 真史

●問い合わせ先：学術局学術研修部 名取  
(甲府公立病院リハビリテーション科内 TEL 055-226-3131)

## 社会局スポーツPT部発

### 第92回全国高等学校野球選手権大会に関わって

炎天下が続く中、小瀬スポーツ公園野球場において、甲子園山梨県予選が開催されました。スポーツ理学療法部では昨年と同様に、7月19日準々決勝から25日決勝まで球場に入りトレーナーとして関わりました。活動内容は試合中の選手への対応や、勝利チームへのストレッチ指導でした。

私は準々決勝1日目に参加したのですが、なんと偶然にも母校の試合でした。試合の進行にハラハラ、ストレッチ指導が近づきドキドキしながらも刻々と時間が過ぎました。前日の勉強会で指導内容の見直しをし、本番で失敗しないように練習をしていると周囲のざわめきが……。控え室に選手がなだれ込み、呼吸を整えるまもなくパートナーストレッチの指導を行いました。暑さに加え緊張や選手の熱気で15分という短い時間でしたが、汗だくになってしまいました。試合後の選手と話をすると、熱痙攣を起こしたまま試合に出場していた選手が数名いた様子で、試合前にも障害の予防についてアナウンスの必要性があると感じました。



石和温泉病院 星野光徳

●問い合わせ先：社会局スポーツPT部 小尾  
(山梨大学医学部附属病院リハビリテーション部内 TEL 055-273-9805)

お知らせ

## ～「山梨内部障害理学療法研究会」 を発足しました。～

呼吸・循環・代謝疾患はそれぞれが理学療法における主要な疾患であるばかりか、理学療法実施中のリスク管理としてこれら疾患、病態の理解は必須の事項と考えられます。

対象者の高齢化、ならびに一人がさまざまな疾患を抱えている現状を考えますと、リスク管理のための知識や技術の獲得は重要な課題であると考えられます。

本研究会は、内部障害に興味がある理学療法士に対して学習の機会をもうけ、内部障害系理学療法士のレベルアップをはかることを目的としています。

早速ではありますが、第1回研修会を企画しました。詳細は以下の通りです。是非、奮ってご参加下さい。

### ●研究会の事業

- ▮ 研修会（講演会）の企画    ▮ 研修会（講演会）の運営    ▮ 講師の派遣・依頼
- ▮ 研究の企画、発表の援助    ▮ 学習グループの育成 など

文責：甲府共立病院 山田洋二

## ■ 第1回研修会のお知らせ

- 日 時：11月19日 金曜日 受付 18時30分 講演 19時～21時
- 講 師：麻生リハビリテーションサービス 大森 豊 先生
- テーマ：在宅理学療法におけるリスク管理について ～在宅リハビリスタッフへ求められるもの～
- 参加費：1,000円（予定）
- 場 所：県立青少年センター 第1研修室
- 参考図書：「在宅・訪問リハビリテーションリスク管理実践テキスト 安心・安全なサービス実現のために」  
診断と治療社
- 参加申し込み受付は、  
メールアドレス [uchida7801@kenkoudai.ac.jp](mailto:uchida7801@kenkoudai.ac.jp)（健康科学大学：内田学）まで、所属施設とお名前を  
記入して送信して下さい。

# 会員外のお客様

File 2

## 山梨県高次脳機能支援センター紹介

山梨県高次脳機能障害者支援センター 作業療法士 関谷 宏美

「交通事故にあっってからなんだか性格が変わってしまった！ 命に関わるようなあんな大きな怪我だったんだからしかたがない。」「でもこれでは仕事も続かないし・・・この先どうやって暮らしていけばいいのだろう・・・」こんな言葉を耳にしたことはありませんか？

脳血管疾患による一次野の障害は、運動麻痺など比較的外からもわかりやすいものです。しかし、交通事故などによる「びまん性軸策損傷」では、運動麻痺は伴わない高次脳機能障害が生じることがあります。このような場合、一見障害が見えにくく、身体障害者手帳や介護保険制度の対象からも外れ、当事者、家族共に大変困惑します。

しかし、このような場合も高次脳機能障害に対する専門的な検査やリハビリテーションで、機能障害、生活障害の改善を図り、また、家族・支援者・社会の理解と協力でその方に適した社会生活を組み立てることが出来ます。

このような高次脳機能障害者の支援を目的に、厚生労働省では、平成13年度から高次脳機能障害支援モデル事業を12の都道府県で開始し、平成18年には全国の自治体に高次脳機能障害者支援センターの設置の通達がだされました。山梨県では、今年4月、甲州リハビリテーション病院が委託を受け「山梨県高次脳機能障害者支援センター」の開所にいたしました。

当センターは、「行政的定義による高次脳機能障害」として、医療、福祉の対象から外れやすい「記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害」を中心に対応します。当事者や家族および支援者への個別相談、社会への高次脳機能障害の啓発活動および医療・福祉・就労・教育等の関係機関とのネットワーク作りを中心に取り組んでいます。

医師、支援コーディネーター、作業療法士、臨床心理士がチームを組み、私達も学びながら活動を深めているところです。高次脳機能障害に関してお困りの事がありましたらお気軽にご連絡ください。



山梨県高次脳機能障害者支援センター開所式

### 連絡先

甲州リハビリテーション内

山梨県高次脳機能障害者支援センター

Tel : 055-262-3121

月～金 9:00～16:00

# リレーエッセイ

～途絶えることのない  
バトンを君に～

『リレーエッセイ』とは・・・

士会員を対象に、身近な出来事・お国自慢・今はまっていること・病院紹介など、何でもよい（ただし、誹謗や中傷の内容は除外します）ので600字程度で執筆していただき掲載していく企画です。

今までの Supporters にあった「会員のひろば」と違い、会員同士の輪を広げるということで、執筆された方が次の執筆者を決めて、紹介していただくという点です。無理やり書いていただくわけではなく、執筆者同士の繋がりを大切にしていきたいと考えていますので、依頼を受けた方は快く執筆していただけたらと思います。

## Part 9-1

山梨赤十字病院 堀内 秋子 先生

健康科学大学リハビリテーションクリニック高村裕子先生からのリレーでバトンを頂きました山梨赤十字病院の堀内秋子です。

私の勤務している山梨赤十字病院は南に富士山、北に河口湖と自然に囲まれた環境の良い病院です。

私は出身が富士河口湖町なので、近所の（村の）おじさんや友達のお父さんを私が担当することが最近増えてきました。ということは、それだけ私も年をとってきたということになります。

今年2月20日、母から、「父さんが機械に挟まれて骨折した。」と電話が入り「救急車で病院に運ばれた。」と・・・そして、父さんの担当PTになったのです。

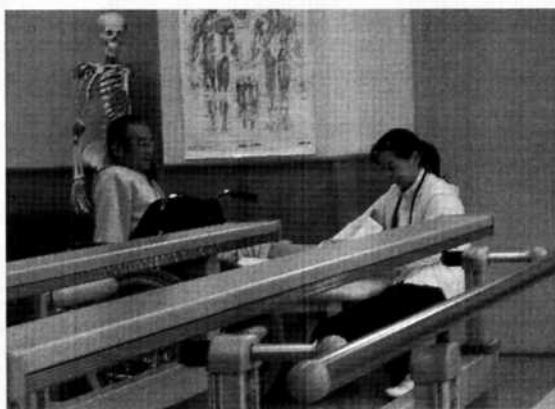
幾度となく大病を負った父の担当になった時、ゴールは？ もう働かなくても良いかな。右足部の挫滅で欠損した皮膚、傷の状態が落ち着くまでには入院生活が長くなることは覚悟していました。

整形外科の先生を始め病院スタッフのおかげで、日常生活は支障なく順調に回復してきました。車も運転し、子供の送り迎えもしてもらっています。

8年前に肝臓の手術をしてから脳梗塞にもなりそれでも働き続け、弱音を見せなかった父の姿は見習うべきところがあるなど今回つくづく思いました。（本音はできるだけ病院にお世話にならないようにと・・・）

これからも父と私のゴールの無いリハビリテーションが続くことと思います。

今回は、『甲府共立病院の中沢俊道先生』にバトンをお渡しします。



## Part9-2

甲州リハビリテーション病院 輿石哲也 先生

こんにちは。一宮温泉病院の小俣正留さんからバトンを頂きました甲州リハビリテーション病院の輿石哲也です。今年で就職して2年目になりますが、1年目と変わらず日々悩みながら過ごしています。その中、強みであったのが、同僚でもあり職場の先輩でもある、訪問リハビリ所属の姉の存在です。よく患者さんや職員の方からも、「姉弟でPTやって、同じ職場とかすごいね、気まずくないの？」等の声をかけて頂くことがあります。実際は同じ病院で同じPTとして働いていると、悩んでいるとき気軽に声をかけアドバイスをもらえたので、本当に助かった印象が強いです。

私と姉とは歳が6つ離れていて、就職するまで姉弟間で特別仲が良い訳ではなかったのですが、就職してからは会話も増え、姉を含め同じ病院の方や他の病院の方と遊びに行く機会も持てました。その中で特にハマっていたことはスノーボードです。他の病院の方と姉に連れて行って頂いたのがきっかけで始めました。最初はリフトを降りるところから介助で、滑るときも常に見守りが必要で本当に大変でした。翌日には筋肉痛がすごかったのを覚えています。何度か行くうちに徐々に滑れるようになり、上達していくのが楽しくて仕方ありませんでした。滑っている最中によく「肩の力を抜いて！」と言われ、自分も患者さんの歩行訓練中によく「肩の力を抜いて」と言っていることを思い出しました。不安定なことをしているのに、力を抜くことは難しいと実体験から気づきました。冬にスノーボードを通じて、姉や他の病院の方と交流を持つ機会ができたことが本当に良かったと思います。



早くまたスノーボードをやりたいなと思いつつも、最近では夏をどう満喫して遊ぼうか、日々模索しながら過ごしています。まずは夏満喫第一弾として、小俣さん、そのペアチケットで私とディズニーランドに行きませんか？私、詳しいです(笑)

次回は『山梨北整形外科の坂本 稔先生』です。

## 原稿を募集しています

会報部では会員の声を少しでも多く取り入れたいと考えています。

テーマは自由です。ご投稿、お待ちしております。

1. 研修会・勉強会等の開催案内・報告内容など
2. 各種お知らせ事項など
3. 体験記など
4. その他



内容の規定はありませんが、個人・団体等の中傷あるいはこれに準ずるものは不可。

●次回 (No. 128 12月下旬発行) 締め切りは、11月下旬です。

問い合わせ先 広報局 会報部 清水真治 (石和温泉病院 理学療法室内 TEL 055-263-0111)

E-mail sinji0012312@yahoo.co.jp